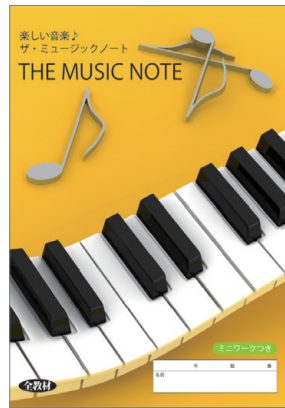


# 教材活用シリーズ 第74回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介します。

「新しい音楽ノートができあがりました。」  
編集部はいろいろなことを考えています。

(株)文理・全教材  
『ザ・ミュージックノート』



(株)文理・全教材 編集部

## 1. はじめに

中学校の音楽の授業では、馴染みのある合唱曲だけでなく、箏や三味線などの伝統音楽、歌舞伎や能楽などの伝統芸能、さらに、世界の民族音楽やポピュラー音楽、クラシック音楽まで学習する。扱う領域が日本だけでなく世界も、時代も大変幅広い。

現場の先生から聞こえる声は、「配当時間が短くて厳しい。」「合唱コンクールに時間をとられてしまう。」「といった時間の問題。」「伝統芸能の取り扱いが難しい。」「楽典を理解させるよい方法はないだろうか。」「といった指導技術的な問題。」「音楽

が苦手でも努力している生徒を評価したい。」といった評価での悩み等さまざまである。

今回、『ザ・ミュージックノート』の全面改訂にあたり、これら先生方の声にすべて応え、生徒の学習を完全にサポートできるノートを目指すという2つの目標を掲げ、企画・編集にあたった。

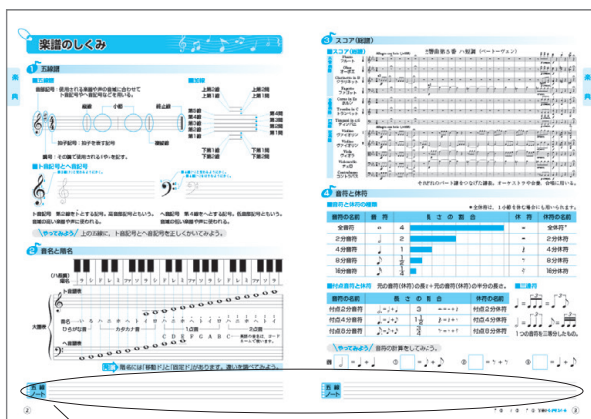
## 2. ノートの役割を見つけること

教科書は、学習指導要領に沿って編集されており、生徒が音楽に関心をもち学習することができるよう、イラストや写真をふんだんに使って視覚や感性に訴えるなどのさまざまな工夫を

こらしている。  
ノート教材の役割は？ できることは？  
・学習内容の整理がしやすいこと。  
・学習内容を確認しやすいこと。  
・教科書のサポートに徹すること……。

編集部では、現行版を丁寧に分析し、1時限の授業展開と年間の授業計画から学校現場での使用法についてヒアリングを重ねた。そして、現行版1ページずつの要否について検討を重ね、新企画を加え、新しいミュージックノートの骨子が徐々に完成していった。こうして完成した新しい『ザ・ミュージックノート』は楽典・ノート・記録・資料で構成されている。次に特長や工夫をご紹介します。

### <楽典のページ>



五線ノートをつけました

### 3. 工夫あれこれ

#### ■楽典の部

音楽を表現するときや、鑑賞するときに必要な大切な音楽の基礎知識であり、語学でいうと文法にあたるものが「楽典」である。覚える事項が多いため、書いて覚える作業を通じて学習するという考えを重視した。(やってみよう)というコーナーがそのひとつで、ト音記号を書く練習や簡単な問題を掲載している。また、最下段に五線ノートを配置したことで、ノートページに移動しなくても簡単な作業が可能になっている。

#### ■ノートの部

多種多様なノートを用意した。一部を紹介。

#### ・校歌のページ

学校生活で一番身近な歌である校歌を書き写すページ。学級歌の作詞・作曲に活用することもできる。楽典の「楽譜のしくみ」で学習した楽譜の書き方を実践してほしい。

#### ・箏の楽譜ノート

和楽器に対応したノート。特に箏の学習をスムーズに進めるため、通常の五線ノート以外に、箏用の楽譜ノートを採用した。ひとつの楽曲を箏用の楽譜と五線譜の両方で書くことができるのがポイントである。

#### ・鍵盤図十楽譜ノート

旧ノートでも好評だった鍵盤図十楽譜ノート。鍵盤図の下に五線ノートを2段分載せているので、音名や理解しにくい音階、音程等の学習に役立つページになっている。

#### ■記録の部

授業内容を記録するページ。

#### ・習った曲の記録

作詞者、作曲者、拍子、速さ、使われている記号などを記録することができる。音楽を構成している要素を学び、知識を深めることが可能になっている。

#### ・合唱コンクールの記録

学校行事の定番「合唱コンクール」。記録ページは2ページ分あるので、課題曲・自由曲の両方を記録できる。練習の自己評価も可能なので、練習を記録することで、自分自身とクラス全体の課題が見えてくる。

#### ■資料の部

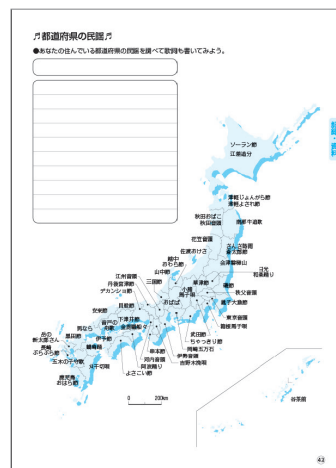
多種多様にふくらんだ音楽を学ぶ中学生にとって参考になる資料を掲載。

#### ・日本の伝統芸能

「歌舞伎」「文楽」「雅楽」「能」などの日本の伝統音楽の学習はDVD鑑賞が主である。資料には、起源や概要、演奏する楽器、演者、代表作等を一覧にまとめてあるので、実際に鑑賞するときの手

引きとしても便利である。生徒の理解度アップを助ける資料である。

#### <各地の民謡の紹介>



#### ・西洋と日本の作曲家と作品

教科書掲載曲を中心に、その作曲家の代表作を掲載。古今東西の名曲を年表に整理した。音楽史の流れをつかむことができる。

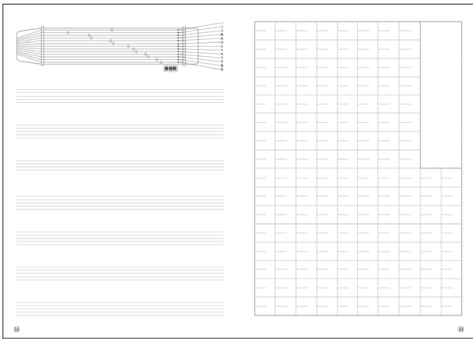
昨今、YouTubeなどで簡単に音楽を検索できる。生徒たちがクラシック音楽に関心をもつひとつのきっかけにもなつてほしいという思いを込めた。

### 4. おわりに

音楽は、どんな言語よりも幅広く世界中で通用する「共通語」である。日本の伝統音楽を学び、自国の文化を知ることや外国の音楽を学ぶ(異文化理解)ことは、国際人として必要不可欠なものである。

この『ザ・ミュージックノート』を使用することで、生徒たちが正しい音楽知識を身につけ、豊かな人生を送れる手助けになれば何よりだと考えている。

#### <箏のページ>



2種類の楽譜を用意しました。